2011
6
No.21

The Kashiwara Mihariban
かしわら見張り番

発行所 かしわら見張り番

代表 はまうら佳子
〒582-0026
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502
FAX.072-977-8782

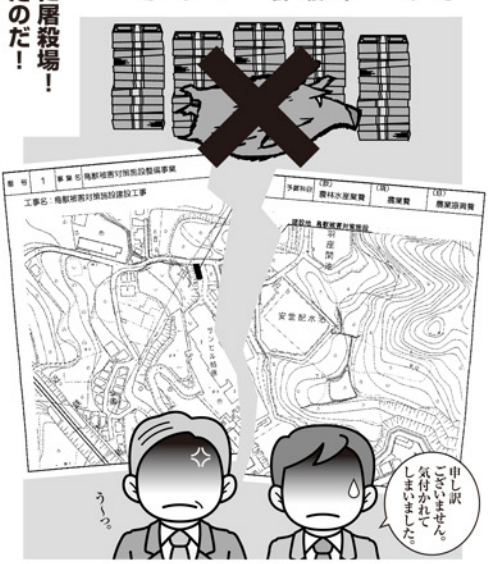
続報
イノシシ屠殺場計画が中止に!!

岡本市長が本会議で計画をとりやめ!!
市民と柏原議会の勝利がここに!!

前号の「かしわら見張り番」で取り上げた「イノシシ屠殺場」のうわさは本当だった!!

しかし6月20日、柏原市議会本会議で岡本市長が「イノシシ屠殺場」の計画を認めた上で、この計画を白紙撤回すると発表。

一連の騒動にピリオドを打った。市民の猛反対と議員の力で、このイノシシ騒動はひとまず、決着がついた。



「文化と歴史のまち柏原」に屠殺場!計画はひそかに進行していたのだ!

この騒動の発端は、今年2月、「柏原市市民生活部産業振興課長」が大阪府に提出した「鳥獣被害防止総合対策交付金の申請について」の書類である。この鳥獣被害とは、畑を荒らす動物、すなわちイノシシなど被害のことで、そのための交付金をもらうために「食肉加工処理施設の設計図」や「処理に必要な冷蔵庫などの備品リスト」まで柏原市は事細かに作成していたのである。食肉加工処理施設とは、「屠殺場」のことであり、その内容が、市民には全く知らされていないことを前号で述べた。

ある人が岡本市長にこの事実を尋ねたところ、市長は「知らない」と回答したという。しかし、ことはひそかに進行していたのである。

雁多尾畑(かりんどおばた)では住民運動の猛反対!!次の計画地はサンヒル柏原の北だった!

当初の計画地、雁多尾畑が住民運動の猛反対に合ったと聞いている。それは当然である。

イノシシなど野生の動物にはダニがついている。中には女性の指ぐらいの大きなモノもあり、飼い犬についたら貧血を起こすぐらい強烈なものもある。

血を吸うだけでなく、当然かゆいわけで、こんなダニがついたイノシシが集まってくれば、当然その周辺はダニだらけになるわけだ。

次に標的にされたのは、「サンヒル柏原」(安堂町)の北側だ。通常、堅下南小中学校の子どもたちが通る通学路になっている場所であったが、ここも当然住民の理解が得られるはずがなかった。

6月20日に岡本市長が白紙撤回!住民パワーと市議会の力が結集!

6月20日、柏原市議会の本会議で、岡本市長は「イノシシの屠殺場計画」があったことを認め、白紙撤回をした。これは住民と柏原市議会の大勝利である。多くの住民が、屠殺場計画に「NO!」と断固反対し、市議会員もその主張に賛同した。

そもそもなぜ、柏原市にイノシシ屠殺場が必要だったのか。柏原市が運営するが、府の施設であったため、この計画が実現すれば、近隣の市町村から捕獲したイノシシが集まってきたわけである。処理費がいくらか入るかもしれないが、それ以上のダニ、においの問題など、考えたことがあったのだろうか。

「NPO法人柏原ふる里づくりの会」とは?なぜ、ここだけに利益が入るシステムに!?

すでに白紙撤回されたとはいえ、入札もなしに、施設の管理が「NPO法人柏原ふる里づくりの会(三宅義雅理事長)」となっていた点には、今も疑問が残る。

「柏原ふる里づくりの会」は、毎月の家賃(施設利用料)を払うだけで、殺処分の料金、食肉加工・販売して得た利益も入ることになっていた。

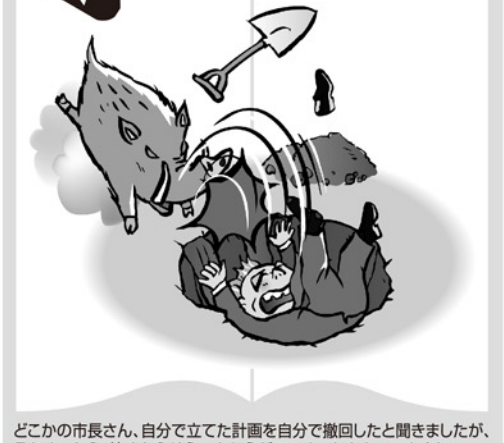
儲けたお金が市に入るのであれば理屈が通るが、光熱費、通信運搬費なども市が負担することになっていたのはおかしい。

このNPO法人だけに利益が入るシステムになっていたのはなぜ?これからも「柏原ふる里づくりの会」の活動には目を離してはならない。

かしわら新辞典

「墓穴を掘る」(ぼけつをほる)

身を滅ぼす原因を自分から作ることのたとえ。
(大辞林より)



どこかの市長さん、自分で立てた計画を自分で撤回したと聞きましたが、それやったら、始めからせえへんほうがマシやったんちゃいますか〜おつかれさんどした＼(^O^)／